

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 12 月 20 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471504054		
法人名	株式会社コムネット		
事業所名	グループホーム家族		
所在地	広島県福山市千田町三丁目26番13号 (電話) 084-961-0688		
自己評価作成日	令和4年11月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471504054-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471504054-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年12月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

開設時からの理念を大切に家庭的な雰囲気の中で家族のように気兼ねなく生活ができるよう、ひとり一人に寄り添った介護で入居者の日々の暮らしを支援しています。また、新型コロナウイルス感染防止のため限られた交流に留まっているが、地域密着型の事業所として18年目を迎え千田町の一員として町内会に属し良好な関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念の「『家族』のように気兼ねなく暮らせるホーム」が実現できるように取り組み、利用者と職員が気兼ねなく接する関係を目指している。  
管理者は職員の話に耳を傾け、職員は利用者のためにできることを話し合いながら支援できるように取り組んでいる。  
月に1回、季節をテーマにした「かかし作り」や「かたつむりをつくる」などの行事を行い、利用者と一緒に楽しんでいる。  
重度化した際に利用者・家族の要望があれば、看護師と訪問診療医が連携し看取りを行い、職員は夜間でも看護師と連絡できる体制を整えている。

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関に大きく理念を掲げ、いつでも誰でも確認できるようにしている。月に1度はミーティングで理念を唱和・確認して、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は、玄関に掲示しパンフレットにも記載し誰でも確認できる。理念は、毎月の職員会議で唱和し確認している。理念の実践として、毎月の行事で利用者の笑顔が見えるように職員が取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染防止のため、地域行事への参加は縮小しているが、「家族通信」は町内で回覧を継続している。また、リングプルやペットボトルのキャップの収集ボランティアで地域との交流は続いている。	町内会に加入し、町内清掃や「子供110番」に協力している。今まで参加したり協力していた「災害について考える町内学習会」や祭りは、コロナ禍のために中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して施設の事例の紹介や講習などを実施してきたが、新型コロナウイルス感染防止のため開催できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の実施を継続してきてはいたが、2020年度からは新型コロナウイルス感染防止のため開催できていない。	運営推進会議は、今までは、家族・民生委員・地域包括支援センター・市介護保険課が出席して開催していた。この1年は、新型コロナ感染状況により、事業所内で協議し中止となり、出席者に中止の連絡をしている。会議は中止となったが、出席者からの情報提供は継続している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議を介して市職員や地域包括支援センターとの連携を図って来たが、新型コロナウイルス感染防止のため、その機会は減少している。	運営推進会議に市介護保険課が参加して意見交換していたが、この1年は会議の中止で出来ていない。事業所の広報誌を地域包括支援センターに届けて、活動状況を報告している。市職員が生活保護受給者の状況確認で来訪し相談することもある。	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度は開催すると共に年2回の勉強会も実施している。職員間で身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	年2回、身体拘束に関する施設内研修を行っている。「身体拘束適正化委員会」は3か月に1回開催し、職員と協議し、運営推進会議で状況報告を行っている。利用者の行動を制限しないように取り組んでいる。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修課題として取り入れることで、職員の意識を高めるよう努め虐待が見過ごされないようにしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している。	成年後見制度を利用している方はいないが、制度を利用される方がいれば積極的に支援したい。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約には十分な時間と具体的な内容を踏まえながら説明することで、利用者や家族等の理解が深められるように努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来所した時や電話で本人の現状や希望を伝え、それぞれの思いを汲み取り反映できるように努めている。	今までは、年2回、家族会を開催し家族の意見を聞いていたが、コロナ禍で中止となり、家族への連絡時や利用料金を届けに来た際に意見を聞いている。家族からの「面会への要望」には、窓越しの対面や短時間の施設内面会を行っている。	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に1度のミーティングに代表者と管理者は必ず出席をしており、意見を伝え易い環境作りに努め、提案などを施設運営に反映させている。</p>	<p>管理者は、日常業務の中で、職員の意見を耳を傾け、定例の職員会議で職員の意見を聞いている。「救命に関する勉強会を開いてほしい」との職員からの意見で、施設内研修として、救急車を依頼した際の対応などについて学んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員と一緒に働く中で職員個々の状況を把握できるようにしている。また、各職員の要望を踏まえながら働き易い職場作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、外部の研修参加は難しい状況となっている。リモートによる研修機会を持てるよう努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、現在は交流する機会を作ることが出来ない。今後は状況をみながら実施したい。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前の本人面談での聞き取りや家族が作る家族アセスメントを利用して、本人の思いに寄り添い安心して暮らせる環境・関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前の家族面談での聞き取りや家族が作る家族アセスメントを利用して、家族の思いを汲み取り支援ができるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居前に必ず施設見学と本人面談を行っている。その上でグループホームへの入居が適切であるか検討し入居に至っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>「互いに寄り添い、励まし合い、元気に生きるホーム」の理念の下で、個々の役割り作りや入居者同志が協力し合い生活できるよう支援している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、施設内で面会は出来ずにいるが、手紙による毎月の近況報告や必要に応じて電話で連絡・相談をしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、面会が出来ず家族以外の馴染みの関係が途切れているが、友人から手紙が届く入居者はおられる。家族写真を持参されるなどして密に連携を取り関係が途切れないよう努めている。</p>	<p>毎年、職員が利用者の家族などに年賀状を作成しているが、利用者一言書いてもらい、馴染みの関係継続を支援している。また、家族が利用者の友人を伴って訪問し利用者が楽しく話をした事例があり、今後も継続したいと考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性と新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら、入居者同士が関わりを持てるよう職員が間に入り交流できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	個人情報保護の観点からグループホームを退所された入居者に連絡を入れたり、情報収集をすることはないが相談があれば支援したい。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族アセスメントの活用や日々の生活の中で聞き取った事などを介護日誌や申し送りノートを使い職員で共有している。共有した情報を基にミーティングなどで本人の思いを汲み取れるよう検討している。	日常生活の中で把握した利用者の思いは、2か月に1回のカンファレンスで職員で共有している。利用者が「施設内の廊下を歩きたい」との要望を実際に行うようにした事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族アセスメントの活用や日々の会話の中で聞き取った事、居宅サービスや病院、他施設などから、現在に至るまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	家族アセスメントの活用や日々の関わりを介護日誌、カンファレンスを通して職員間で現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の思いを聞き取り、職員全員で介護計画をチェックし作成をしている。また、3ヵ月に1度のモニタリングで介護計画の見直しを検討。主治医の指示を仰ぎ計画に位置付けている。</p>	<p>職員が参加するカンファレンスで、職員の意見を聞きケアプランのモニタリングを行っている。その後、ケアプラン計画作成者がプランの見直しを行っている。ケアプランのサービス内容に「家事手伝い」や「行事に参加する」を提案している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の介護日誌や申し送りノート、月に1度のカンファレンスで職員全員で情報を共有している。その情報を基に介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の状況や様々な家族の状況に合わせて、柔軟なサービスが提供できるよう検討、実践している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>これまで地域の祭りや避難訓練での消防団の参加など地域資源を活用してきたが、新型コロナウイルス感染防止のため、現在は地域との協働が困難となっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ユニット毎の3週間に1度の往診を受けている。必要に応じて往診日以外でも診察を受ける事も出来る。また、通院支援も行っている。</p>	<p>利用者と家族の要望でかかりつけ医を決めている。事業所の協力医療機関や訪問診療医をかかりつけ医に選んでいる。通院は家族と職員が一緒に行ったり、職員が対応するなど利用者に応じて介助している。常勤看護師は利用者の健康状態を把握し、体調不良時は医師と連絡をとり対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>常勤で看護師が配置されており日々の中で相談などが出来る。また、夜間などでも連絡が取れ適切な医療が受けられるような環境を整えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>日々の中で顔が見える関係を協力医と築いており、入院退院がスムーズに行えるように情報の共有も出来ている。また、引継ぎとは別に遅くとも翌日までには情報提供書を手渡している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時には重度化・看取り支援に関する意向確認書を取り交わしている。入居者の病状等の変化に伴い本人や家族と再度話し合いをしている。看取り支援時には訪問診療に移行し、ちょっとした変化にも対応がすぐ出来るよう支援している。</p>	<p>契約時に「重度化及び看取りに関する指針」を提示し、意向を確認している。重度化した際は、医師が家族に説明し方針を決定し、それに沿って支援している。看取りを希望した場合は、訪問診療医と看護師が連携し対応している。看取りに関する研修を行い、夜間でも看護師に連絡できる体制がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時のマニュアルや緊急連絡先の掲示をしており、定期的にミーティングで確認も行っている。また、AEDを常備しており年に1回は研修を実施している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>定期的に様々な状況においての避難訓練を実施している。非常食を備蓄しており災害時にも対応出来るよう備えている。新型コロナウイルスの流行以前は、地域の消防団の協力も得ていた。</p>	<p>災害と火災に関する避難訓練を年2回実施している。災害を想定し、実際に避難する訓練と災害をシュミレーションして通報やAED・消火器の使用方法を確認する訓練を行っている。地域の消防団が施設に対する助言を行い、訓練に参加している。3日分程度の食料を備蓄している。</p>	



自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者の尊厳に配慮しながら、認知症状に応じた分かり易い声掛けを行うよう心掛けている。	理念の「気兼ねなく暮らせる」を実践する中で、利用者を尊重する言葉を選んで使用するよう職員へ指導している。利用者の尊厳を重視し、排泄介助には、十分に配慮するように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	クローズドクエスションを活用するなど、入居者の理解力に応じて自己決定が出来るよう工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴や食事などある程度は決まった時間を設けはしているが、入居者の思いや生活リズムを尊重するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	道具の準備や声掛け、日常的に身だしなみを整えられるよう職員が支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本的には、こちらでメニューを決めて食事の提供をしているが、朝食では希望によってパン食を選べるようにしている。新型コロナウイルス感染予防のため、食事準備や片付けは職員が行っている。	昼食・夕食は、配食業者による食事を提供し、朝食は手作りで、パンを選択することができる。利用者の要望するおやつを提供するようにしている。また、食事時間は利用者に応じて柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>嚥下状態など入居者の総合的な状況を含めて、食事形態を検討し提供をしている。月に1度は体重測定を実施し、体重の増減や食事量、水分摂取量についても個別に記録している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後には口腔ケアを行い、義歯洗浄も毎日している。変わりがあればかかりつけの歯科医と連携が取れるように支援をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを掴みながら、またサインを見逃さないよう努め、出来る限りトイレで排泄が出来るように支援をしている。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導している。利用者のサインを見逃さずトイレ誘導することで失敗が少なくなった事例がある。利用者に応じたパットやリハビリパンツを検討して使用している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便を促せるよう乳製品や野菜中心の食事提供を心掛けている。また、水分摂取量に気を付けながら腹部のマッサージも行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>夜にぐっすり眠れるよう夕方に入浴時間を設けている。入浴機会は週に2、3回となっているが、気持ちよく入浴が出来るようお湯の温度は好みに合わせて変え、本人の意思を尊重して支援をしている。</p>	<p>夕方に入浴するようにしているが、利用者の体調に応じて午前に入浴するなど柔軟に対応している。本人の要望する湯の温度に設定し、入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、日を改めて入浴している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>安眠が得られるよう入浴は夕方に行っている。また、個々の生活習慣や状態に合わせて休息できる時間を設けている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬剤情報を個別のファイルで看護師が管理しており、いつでも職員が確認を出来るようにしている。薬剤の変更については往診ノートで管理し職員全員にも周知している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>月に1度は季節を感じられる行事を催し、日々の中では個々の能力に合わせた役割りや好きな音楽を聴けるように支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、外出は出来ていない。</p>	<p>郵便局や市役所に職員と一緒に外出をしていたが、コロナ禍のため中止している。外出ができない状況の中で、時には、玄関から出て外の空気を感ずることもある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、外出機会がなくお金を使う機会もない。</p>		

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日ごろは電話や手紙のやり取りはないが、今年は年賀状を書いて家族に送る支援をした。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある掲示物や写真を飾っており、落ち着いた雰囲気作りに努めている。また、自然光を取り入れられるよう施設の作りは工夫されてもいる。	季節をテーマにした作品を職員と一緒に作り、掲示している。新型コロナウイルス感染防止のために、常時、窓を一部開けて換気するようにしている。利用者に応じた大きさのテーブルを使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席の配置を工夫することで、入居者同士が心地良く過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべく使い慣れた物を持ち込んで貰えるよう家族にお願いをしている。居室に家族の写真を飾り、テレビを置いて好きな番組を見て思い思いに過ごされている。	利用者が今まで大事に使っていた小物、バックや櫛、巾着などを持ち込んでいる。家族の写真を飾るなど利用者毎に過ごしやすいように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	特に居室とトイレには大きく分かり易い表札を掲示している。また、廊下や洗面所、トイレなど様々な場所に手すりを設置し、全フロアはバリアフリーとなっている。		

V アウトカム項目( かつお ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関に大きく理念を掲げ、いつでも誰でも確認できるようにしている。月に1度はミーティングで理念を唱和・確認して、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染防止のため、地域行事への参加は縮小しているが、「家族通信」は町内で回覧を継続している。また、リングプルやペットボトルのキャップの収集ボランティアで地域との交流は続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して施設の事例の紹介や講習などを実施してきたが、新型コロナウイルス感染防止のため開催できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の実施を継続してきてはいたが、2020年度からは新型コロナウイルス感染防止のため開催できていない。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議を介して市職員や地域包括支援センターとの連携を図って来たが、新型コロナウイルス感染防止のため、その機会は減少している。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度は開催すると共に年2回の勉強会も実施している。職員間で身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や在宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修課題として取り入れることで、職員の意識を高めるよう努め虐待が見過ごされないようにしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している方はいないが、制度を利用される方がいれば積極的に支援したい。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約には十分な時間と具体的な内容を踏まえながら説明することで、利用者や家族等の理解が深められるように努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来所した時や電話で本人の現状や希望を伝え、それぞれの思いを汲み取り反映できるように努めている。		



自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度のミーティングに代表者と管理者は必ず出席をしており、意見を伝えやすい環境作りに努め、提案などを施設運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員と一緒に働く中で職員個々の状況を把握できるようにしている。また、各職員の要望を踏まえながら働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新型コロナウイルス感染防止のため、外部の研修参加は難しい状況となっている。リモートによる研修機会を持てるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルス感染防止のため、現在は交流する機会を作ることが出来ない。今後は状況をみながら実施したい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の本人面談での聞き取りや家族が作る家族アセスメントを利用して、本人の思いに寄り添い安心して暮らせる環境・関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の家族面談での聞き取りや家族が作る家族アセスメントを利用して、家族の思いを汲み取り支援ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に必ず施設見学と本人面談を行っている。その上でグループホームへの入居が適切であるか検討し入居に至っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「互いに寄り添い、励まし合い、元気に生きるホーム」の理念の下で、個々の役割り作りや入居者同志が協力し合い生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナウイルス感染防止のため、施設内で面会は出来ずにいるが、手紙による毎月の近況報告や必要に応じて電話で連絡・相談をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染防止のため、面会が出来ず家族以外の馴染みの関係が途切れている。家族写真を持参されるなどして密に連携を取り関係が途切れないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性と新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら、入居者同士が関わりを持てるよう職員が間に入り交流できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	個人情報保護の観点からグループホームを退所された入居者に連絡を入れたり、情報収集をすることはないが相談があれば支援したい。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族アセスメントの活用や日々の生活の中で聞き取った事などを介護日誌や申し送りノートを使い職員で共有している。共有した情報を基にミーティングなどで本人の思いを汲み取れるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族アセスメントの活用や日々の会話の中で聞き取った事、居宅サービスや病院、他施設などから、現在に至るまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	家族アセスメントの活用や日々の関わりを介護日誌、カンファレンスを通して職員間で現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の思いを聞き取り、職員全員で介護計画をチェックし作成をしている。また、3ヵ月に1度のモニタリングで介護計画の見直しを検討。主治医の指示を仰ぎ計画に位置付けている。		
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護日誌や申し送りノート、月に1度のカンファレンスで職員全員で情報を共有している。その情報を基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者の状況や様々な家族の状況に合わせて、柔軟なサービスが提供できるよう検討、実践している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	これまで地域の祭りや避難訓練での消防団の参加など地域資源を活用してきたが、新型コロナウイルス感染防止のため、現在は地域との協働が困難となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ユニット毎の3週間に1度の往診を受けている。必要に応じて往診日以外でも診察を受ける事も出来る。また、通院支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤で看護師が配置されており日々の中で相談などが出来る。また、夜間などでも連絡が取れ適切な医療が受けられるような環境を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の中で顔が見える関係を協力医と築いており、入院退院がスムーズに行えるように情報の共有も出来ている。また、引継ぎとは別に遅くとも翌日までには情報提供書を手渡している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には重度化・看取り支援に関する意向確認書を取り交わしている。入居者の病状等の変化に伴い本人や家族と再度話し合いをしている。看取り支援時には訪問診療に移行し、ちょっとした変化にも対応がすぐ出来るよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルや緊急連絡先の掲示をしており、定期的にミーティングで確認も行っている。また、AEDを常備しており年に1回は研修を実施している。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に様々な状況における避難訓練を実施している。非常食を備蓄しており災害時にも対応出来るよう備えている。新型コロナウイルスの流行以前は、地域の消防団の協力も得ていた。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者の尊厳に配慮しながら、認知症状に応じた分かり易い声掛けを行うよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	クローズドクエスションを活用するなど、入居者の理解力に応じて自己決定が出来るよう工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴や食事などある程度は決まった時間を設けはしているが、入居者の思いや生活リズムを尊重するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	化粧水などの道具の準備や声掛け、日常的に身だしなみを整えられるよう支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本的には、こちらでメニューを決めて食事の提供をしているが、朝食では希望によってパン食を選べるようにしている。新型コロナウイルス感染予防のため、食事準備や片付けは職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>嚥下状態など入居者の総合的な状況を含めて、食事形態を検討し提供をしている。月に1度は体重測定を実施し、体重の増減や食事量、水分摂取量についても個別に記録している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後には口腔ケアを行い、義歯洗浄も毎日している。変わりがあればかかりつけの歯科医と連携が取れるように支援をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを掴みながら、またサインを見逃さないよう努め、出来る限りトイレで排泄が出来るように支援をしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便を促せるよう乳製品や野菜中心の食事提供を心掛けている。また、水分摂取量に気を付けながら適度な運動や腹部マッサージなども行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>夜にぐっすり眠れるよう夕方に入浴時間を設けている。入浴機会は週に2、3回となっているが、気持ちよく入浴が出来るようお湯の温度は好みに合わせて変え、本人の意思を尊重して支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安眠が得られるよう入浴は夕方に行っている。また、個々の生活習慣や状態に合わせて休息できる時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報を個別のファイルで看護師が管理しており、いつでも職員が確認出来るようにしている。薬剤の変更については往診ノートで管理し職員全員にも周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に1度は季節を感じられる行事を催し、日々の中では個々の能力に合わせた役割りや折紙などの手作業が出来るよう支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染防止のため、外出は出来ない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小銭を持っている入居者はいるが、新型コロナウイルス感染防止のため、外出機会がなくお金を使う機会もない。		



自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>携帯電話を使う入居者はいるので充電の確認などの支援をしている。また、日ごろは手紙のやり取りはないが、今年は年賀状を書いて家族に送る支援をした。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感のある掲示物や写真を飾っており、落ち着いた雰囲気作りに努めている。また、自然光を取り入れられるよう施設の作りは工夫されてもいる。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>席の配置を工夫することで、入居者同士が心地良く過ごせるように配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>なるべく使い慣れた物を持ち込んで貰えるよう家族にお願いをしている。居室に家族の写真を飾り、テレビを置いて好きな番組を見て思い思いに過ごされている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>特に居室とトイレには大きく分かり易い表札を掲示している。また、廊下や洗面所、トイレなど様々な場所に手すりを設置し、全フロアはバリアフリーとなっている。</p>		

V アウトカム項目( わかめ ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム家族

作成日 令和5年2月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	新型コロナウイルス感染症の影響で運営推進会は中止になり、地域資源との繋がりが疎遠になっている。	地域との繋がりの強化。	入居者の利用状況など現状を紙面にて配布する。また、意見等について聞き取りをする。	3ヵ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。